SUPER GT2020 第1戦　7月19日(日) 富士スピードウェイ

新型車 デビュー戦
3連続優勝!

2015 **RC-F**

2017 **LC500**

2020.7.19 **GR Supra**

無観客でのレース、予選でポールポジションを獲得!

SUPER GT2020シリーズ第1戦が、コロナウイルス禍の中、"無"観客で開催された。特に今回の"無"観客は徹底されていて、観客だけでなく、我々スポンサーなどの関係者や、チームのマネージャー達、カメラマン、レースクィーンまでレースに直接かかわる者以外のすべてがオミットされたのだ。

やっとのことで開催される第一戦は、トヨタが新しく「トヨタGR Supra」に全面的な車種変更をし、ホンダは同じ「NSX」だが、固執していたエンジンのミッドシップ搭載を、他社の車と同じようにフロントエンジンに移しての初レースであった。

日産は昨年からと同じ「GT-R」で変化はないように見える。500クラスの3車種の公式テスト後までの前評判ではホンダNSXのエンジンが速いと評判が高く、トヨタ・スープラがそれに続き、GT-Rは撤退の噂が出るくらい何の進化もしていず、勝負になりそうにない。

そんな前評判の中、今日の午前中からの予選は、#37は、Q1がニック・キャシディ選手で5位につけQ2に進む。ところがそのQ2では平川亮選手が何とトップでポールポジションを獲得した。

車種が変わるから？平川選手が岡山に強いのか？

#37は、過去、車種が変わった初戦に二度優勝している。

●「レスサスSC430」→「レクサスRC-F」の第一戦・岡山で優勝。

●「レクサスRC-F」→「レクサスLC500」の第一戦・岡山でも優勝。

#37は、① 車種が変わる一戦目に優勝するジンクス?を持っているのか、あるいは② 平川選手の元々ホームグランドである岡山国際サーキットで強いのか。

今回の車種変更「レスサスLC500」→「トヨタGR Supra」の第一戦は「富士スピードウェイ」。その予選でポールポジションを取った！今回のレース結果で、①なのか②なのかがはっきりする。

他車のアクシデントがあったものの背後を脅かされることなく威風堂々のポールトゥウィン!!

そして午後3時からの決勝レース。天気は「晴れ」のようだ。現地に行けないので、名古屋市内のあるカーディーラーの「モビリティゲート」という設備で、何人かが集まって、ソーシャルディスタンスに気をつけながら、みんなでライブの放映を見るパブリックビューイングでレースを観る。画像の様子では「晴れ」のようだった。観客席には人っ子一人いない。ドライバーとメカニックとレース監督以外誰もいない。無観客の大相撲の様子に似ている。

それでもレースは始まり、#37のキャシディ選手は、ポールポジションから初めからトップに出て、途中でセーフティカー導入があったものの毎周、コンマ何秒かの差を拡げて行って、全66周のレース半ばでピットイン、給油とタイヤ交換、平川選手にドライバー交代して、順調なピットタイムでコースに戻る。

それから2位との差が24秒まで開いた時(2位は僚友の#36 au TOM' S)、よく知っているGT-Rがアクシデントでコース上に立ち往生して、またセーフティカー導入で、24秒の貯金がゼロになったが、再スタート後、また着々と周回数を重ねて行って、一度も背後を脅かされることなく、トップでゴールインした。

今年のライバルは・・・#1の注目の新人!?

2位の#36 au TOM' Sは、予選8位から3位にまで追い上げてきた昨年のチャンピオンカー#1 GR Supraに、一度は、差1秒以内に迫られたが、落ち着いたタイヤマネージメントの#36関口選手が軽く退けた。それにしても、予選8位からそのスパ抜けたスピードで追い上げてきた#1は、注目の新人坪井翔選手がドライブしており、坪井翔選手とは間接的に縁もあるのだが、今年の一番のライバルは、この坪井翔選手であることを覚悟した。

#37と#36のワンツーフィニッシュ！

ともあれ、我らが応援するチームTOM' Sは、「#37 KeePer TOM' S GR Supra」が1位となり、「#36 au TOM' S GR Supra」が2位となって、TOM' Sの500クラス、ワンツーフィニッシュとなった。

SUPER GT2020 第2戦　8月8日(土)・9日(日) 富士スピードウェイ

42kgのウエイトハンデを背負いながら、4位入賞！惜しくも表彰台を逃す

圧倒的に重くウエイトハンデが課せられているため、パフォーマンスに不安をかかえながらもセットアップとドライバーのスキルで乗り切る勢いで望んだが、予戦10位。

決勝、スタートドライバーは圧倒的な速さを見せるニック・キャシディ選手が担当。6位まで順位を上げた。ドライバーをエースの平川亮選手にチェンジ、順位を5位に上げ、40周目には前を行く予戦4番手のGTRをパスし4位に浮上、表彰台まであと一歩のところまで追い上げたが、4位入賞となった。

Inter Proto Series POWERED BY KeePer

大雨の鈴鹿サーキットに響き渡るエンジン音に痺れる！すべてのカテゴリーでKeePerが大活躍

インタープロトシリーズ第2大会／7月25日(土)・26日(日)　鈴鹿サーキット

コロナ禍の中、予定通りに開催となった鈴鹿大会は、IPS8年目での待望の大会。IPSのしびれるリアルなバトルを鈴鹿サーキットで多くの皆さんにお見せしたかった…。それでも鈴鹿サーキットにIPS独特のサウンドが響き渡った時にはもう感動もの。

予選ではスリックタイヤで出て行ったのに雨が降り出し、ドライバー達の"闘争心と自制心をコントロールしながらのタイムアタック"には鳥肌が立つ。そして迎えた決勝はさらに大雨！鈴鹿サーキットはとてもテクニカルなコース。それに加えてIPSの車は「扱いが大変難しいレーシングカー」とプロドライバー達は口を揃える。

IPSプロクラスは、スーパーGT500クラスに出場するドライバーが勢揃いするが、その技術をもってしても次々とベテラン勢が脱落していくという厳しい条件の中、KeePer号の福住選手は、見事2位でチェッカー。第一大会に続き今回も表彰台に上ってくれた。また、ジェントルマンクラスでも代打でKeePer号に乗った三浦愛選手が女性ながら見事に優勝！そしてKYOJOCUPでもKeePer号の翁長実希選手が2位を手に入れ、全てのカテゴリーでKeePer号はポディウムを飾った。それにしても、KeePerには車だけでなく人も輝かせてくれる不思議な力があるようだ。

レースの模様は YouTube「Inter Proto Series x KYOJO CUP CHANNEL」にてご覧いただけます。